

和歌山県立近代美術館 コレクション名品選

Selected Works from Collection
The Museum of Modern Art, Wakayama

2021 (令和3) 年
1月5日 (火) —24日 (日)

出品リスト

- * 作者名 (よみがな 欧文 生年 生地—没年 没地)、作品名、制作年、技法・材質、寸法 (縦×横×奥行cm)、寄贈者をおおよそ展示順に記載しています。生没地は現在の地名としています。
- * 本展出品作はすべて当館蔵です。
- * 都合により出品作品を変更する場合があります。

和歌山ゆかりの作家とたどる日本の近代美術

日本の近代は、明治維新による開国とともに大きく進展します。あらゆる分野で西欧の文化を取り入れることが進みますが、美術も例外ではありませんでした。和歌山県からも、西洋の美術を学び、歴史的に重要な業績を残す芸術家が生まれています。この展覧会では、和歌山ゆかりの作家たちの作品によって、日本の近現代の美術のあゆみをたどります。

保田 龍門 (やすだ りゅうもん/YASUDA Ryumon/1891 紀の川市—1965 大阪府)

しょうじょ
少女 1925 (大正14) ブロンズ 173.5×67.0×43.0

建畠 大夢 (たてはた たいむ/TATEHATA Taimu/1880 有田川町—1942 東京都)

いこうおんな
憩ふ女 1925 (大正14) / 铸造1970 (昭和45) ブロンズ 113.0×39.0×73.0

やすだりゅうもん たてはたたいむ ちようこくか
保田龍門、建畠大夢ともに和歌山県出身で彫刻家として活躍しました。

りゅうもん とうきようびじゆつがっこう とうきようげいじゆつだいがく
龍門は東京美術学校 (現在の東京藝術大学) 西洋画科で学んだ後1920 (大正9) 年に渡米、翌年パリに渡ってブルデルの教室で彫刻を学びました。1923 (大正12) 年に帰国し、日本美術院 (院展) を中心に発表を行いました。和歌山市内には紀陽銀行本店や和歌山県庁舎にもレリーフを残しています。戦後は大阪市立美術研究所や和歌山大学で後進の指導にもたずさわり、大きな影響を残しました。1965 (昭和40) 年に73才で亡くなりました。《少女》はきこくご せいさく きくひん帰国後に制作した作品です。

たいむ きようとしりつびじゆつがっこう とうきようとしりつどうだびじゆつがっこう
大夢は京都市立美術工芸学校 (現在の京都市立銅駝美術工芸高等学校)、次いで東京美術学校彫刻科に学び、もんぶしやうびじゆつてんらんかい ぶんてん文部省美術展覧会 (文展) を中心に活躍しました。大夢、あさくらふみお きたむらせいぼう朝倉文夫、北村西望の三人は「文展の三羽鳥」と呼ば

れ、1938（昭和13）年に国会議事堂に設置された伊藤博文、大隈重信、板垣退助のブロンズ像は、それぞれが制作しました。1920（大正9）年には東京美術学校教授に就任、1937（昭和12）年には帝国芸術院初代会員となるなど活躍しますが、1942（昭和17）年、63才で亡くなりました。

龍門、大夢ともに子息の保田春彦、建畠寛造が彫刻家として活躍しています。

神中 糸子（じんなか いとこ/JINNAKA Itoko/1860 和歌山市-1943 兵庫県）

海岸風景 1888-92（明治21-25） 油彩、キャンバス 38.0×80.4 神中茂次氏寄贈

神中義次、増夫妻の三女として現在の和歌山市に生まれました。父は紀州藩に仕え、維新後は東京で陸軍士官学校教官になります。母は紀州藩御用絵師、笹川遊泉の娘でした。糸子は1878（明治11）年、日本に最初にできた国立の美術学校である工部美術学校に入学し、イタリアから招かれたフォンタネージに学びますが、フォンタネージの帰国により1880（明治13）年、工部美術学校を退学し小山正太郎の私塾で学びます。明治女学校、東京女子高等師範学校などで、絵を教えながら制作を続けました。

浜地 清松（はまじ せいまつ/HAMAJI Seimatsu/1885 串本町-1947 和歌山県）

暖炉 1911（明治44） 油彩、キャンバス 102.2×82.1cm 古座町立津荷小学校寄贈

1901（明治34）年、16才の時に兄を頼ってアメリカに渡り、カリフォルニアのサンノゼ・ハイスクールからボストン美術学校へ進学して1909（明治42）年に卒業します。ニューヨークに移り、雑誌の挿絵などを描いて生計を立てながら画家として活動したといい、《暖炉》はこの時期の作品です。1920（大正9）年帰国し、新宮で新宮洋画研究所を開きますが、1925（大正14）年に再渡米。その後フランスに渡り、古典的な描き方を学んで1928（昭和3）年に帰国。帝国美術院展覧会（帝展）で活躍し、1929（昭和4）年には第一美術協会の結成に参加し、発表を続けました。

保田 龍門（やすだ りゅうもん/YASUDA Ryumon/1891 紀の川市-1965 大阪府）

少年 1912（明治45/大正元） 油彩、キャンバス 45.8×60.6 保田春彦氏寄贈

寺中 美一（てらなか びいち/TERANAKA Biichi/1892 紀美野町-1917 和歌山県）

自画像 1916（大正5） 油彩、キャンバス 45.7×33.6 立石靖子氏寄贈

現在の紀美野町出身の寺中美一と保田龍門は東京の太平洋美術学校で知り合い、友人となります。美一は支援を得てヨーロッパで学ぶ準備をしているところ病気となって急に亡くなり、代わって龍門がヨーロッパで学ぶ支援を得ることとなりました。

恩地 孝四郎（おんち こうしろう/ONCHI Koshiro/1891 東京都-1955 東京都）

海の女 1912（明治45/大正元） 油彩、キャンバス 45.0×33.3 恩地邦郎氏寄贈

東京に生まれますが、父親が現在の橋本市の出身です。竹久夢二に感化されて美術を志し、和歌山市出身の田中恭吉と福岡市出身の藤森静雄とともに木版画と詩による作品集『月映』を制作し、近代日本の表現の歴史に大きな足跡を印します。その後も長く版画制作の中心的な人物として活躍しました。《海の女》は東京美術学校西洋画科に再々入学した頃の作品。

木下 孝則 (きのした たかのり/KINOSHITA Takanori/1894 東京都-1973 神奈川県)

後ろむきの裸女の習作 1925 (大正14) 油彩、キャンバス 100.1×80.3 木下米氏寄贈

木下 義謙 (きのした よしのり/KINOSHITA Yoshinori/1898 東京都-1996 東京都)

横たはれる裸体の習作 1926 (大正15/昭和元) 油彩、キャンバス 73.0×117.0 作者寄贈

裕 伊之助 (はざま いのすけ/HAZAMA Inosuke/1895 東京都-1977 石川県)

ブザンソン風景 1924 (大正13) 油彩、キャンバス 50.1×60.8 小島善太郎氏寄贈

木下孝則、義謙の兄弟と裕伊之助の三人はいずれも東京生まれですが、両親が和歌山出身の、和歌山ゆかりの作家です。木下兄弟の父、友三郎は現在の御坊市出身で、明治大学初代学長や貴族院議員を務めた人。母の鈴は和歌山市の出身でした。母方の叔父には美術史家で白樺派の画家としても活動した児島喜久雄がおり、特に孝則には強い影響を与えました。三人とも二科展に出品し、フランスで学んでいます。孝則は1926 (大正15) 年、前田寛治、里見勝蔵、小島善太郎、佐伯祐三らと「1930年協会」を結成。義謙も参加します。同会には後に川口まがいも加わっています。1936 (昭和11) 年、この三人は有島生馬、石井柏亭、小山敬三、安井曾太郎、山下新太郎とともに、堅実な写実表現をめざして一水会を結成することになります。

建畠 大夢 (たてはた たいむ/TATEHATA Taimu/1880 有田川町-1942 東京都)

夢 1939 (昭和14) / 鑄造1982 (昭和57) ブロンズ 168.5×40.0×47.7

原 勝四郎 (はら かつしろう/HARA Katsushiro/1886 田辺市-1964 和歌山県)

裸婦 1930 (昭和5) 油彩、厚紙 72.0×60.5

原厚子氏寄贈

現在の田辺市に生まれ、東京美術学校 (現在の東京藝術大学) に学びますが中退。1917 (大正6) 年、フランスに渡りますが資金不足で十分に学べず、1921 (大正10) 年に帰国。白浜に住んで戦前は二科会、戦後は二紀会に出品を続けました。《裸婦》はフランスからの帰国後、太い描線で一氣に対象をとらえる画風が確立した頃の作品です。

高井 貞二 (たかい ていじ/TAKAI Teiji/1911 大阪府-1986 東京都)

煙 1933 (昭和8) 油彩、キャンバス 91.1×117.0 高井志づ氏寄贈

大阪に生まれ、父の事業のため和歌山に移り、高野口尋常小学校、伊都中学校 (閉校した和歌山県立伊都中央高等学校) に学びました。伊都中学校在学中に、信濃濃洋画研究所の夏期講習会に参加して小出樹重、国枝金三、鍋井克之らの指導を受けています。1930 (昭和5) 年、19歳のとき上京し、二科展に出品。前衛的な作品を発表し評価を得ます。戦後は行動美術協会の設立に加わりますが、1954 (昭和29) 年、アメリカに渡って晩年に帰国するまでニューヨークで制作を続けました。

村井 正誠 (むらい まさなり/MURAI Masanari/1905 岐阜県-1999 東京都)

URBAIN No.1 1936 (昭和11) 油彩、キャンバス 112.2×194.2

岐阜県に生まれ、少年期を新宮市で過ごしました。和歌山県立新宮中学校 (現在の和歌山県立新宮高等学校)

を卒業後上京し、西村伊作が創立した文芸学院美術科で石井柏亭、中川紀元、山下新太郎らの教えを受けます。フランスで学んで1932（昭和7）年に帰国。長谷川三郎、山口薫らと新時代洋画展を開催。1937（昭和12）年の自由美術家協会の結成につながります。戦後は1950（昭和25）年にモダンアート協会の創立に参加。晩年まで対象を抽象化した表現に取り組みました。URBAINはフランス語で都市という意味。

森 有材（もり ゆうざい/MORI Yuzai/1906 和歌山市-1946 紀美野町）

ピエロ 1932（昭和7） 油彩、キャンバス 91.3×73.0 河野喬氏寄贈
現在の和歌山市で生まれ独学で独立美術協会展に出品して評価されました。自由な生き方をつらぬき、美術を目指す若者に与えた影響は大きかったといいますが、結核を患い現在の紀美野町で亡くなりました。

川口 軌外（かわぐち きがい/KAWAGUCHI Kigai/1892 有田川町-1966 東京都）

少女と貝殻 1934（昭和9） 油彩、キャンバス 167.3×267.2
現在の有田川町に生まれ、和歌山県師範学校在学中に上京して安井曾太郎に教えを受けるなどしました。1920年代にはパリで学び、ブラマンク、ロート、レジェ、シャガールらの教えを受けるとともに、須田国太郎、裕伊之助、佐伯祐三、里見勝蔵、小島善太郎、清水登之、中山魏らと交流。1929（昭和4）年に帰国し、二科展に出品の後、「1930年協会」に参加。1930（昭和5）年には独立美術協会の結成に加わり、ヨーロッパで学んだ古典から現代までの美術を独自の表現に結実させました。戦後は抽象的な表現を追求しました。

石垣 栄太郎（いしがき えいたろう/ISHIGAKI Eitaro/1893 太地町-1958 東京都）

K. K. K. 1936（昭和11） 油彩、キャンバス 76.8×91.6 石垣綾子氏寄贈

杉本, ヘンリー（すぎもと へんりー/SUGIMOTO, Henry/1900 和歌山市-1990 アメリカ）

Strange Home 1969（昭和44） 油彩、キャンバス 162.3×130.8

作者寄贈

和歌山からはアメリカにわたって画家となった人たちがいます。

太地町で生まれた石垣栄太郎は、先に移民していた父に呼ばれ、和歌山県立新宮中学校（現在の和歌山県立新宮高等学校）を中退して15才で渡米しました。血洗いなどをしながら苦学する中で芸術に惹かれ、1915（大正4）年には西海岸から東海岸に移り、ニューヨークのアート・ステューデント・リーグでジョン・スローンに学んで、画家として活動を始めました。その作品は社会問題を描きだすもので、この《K. K. K.》も白人至上主義を唱え、人種差別を行う団体「クー・クラックス・クラン」を批判するものです。1927（昭和2）年には田中綾子と結婚。大恐慌、第二次世界大戦という困難な時期をアメリカで過ごしますが、戦後、共産主義との関係を指弾され1951（昭和26）年に帰国。綾子は批評家として戦後も文筆活動を行いました。

ヘンリー杉本は現在の和歌山市生まれで、本名は謙といいますが、和歌山県立和歌山中学校（現在の和歌山県立桐蔭高等学校）を卒業後、19才の時に先に渡米していた両親に呼ばれてアメリカに渡り、芸術大学に進学します。フランスにも留学して画家として認められますが、1941（昭和16）年に日米間で戦争が始まると日系人の強制収容が行われ、杉本もジェローム強制収容所、後にローワー強制収容所に収容されました。収容所での生活やできごとを杉本は絵画に描き記録しました。《Strange Home》は「奇妙な家」という意味。幼子と

妻を残して従軍した夫を強制収容所で待つ日系二世の家族を描いています。

保田 龍門（やすだ りゅうもん／YASUDA Ryumon／1891 紀の川市－1965 大阪府）

おおくにぬしのみこと 1942（昭和17） 木（樟） 44.5×71.0×17.0 辻井徹氏寄贈
紀の川の底から掘りだされたという樟の根に彫られた日本神話の一場面です。すさのおの命の娘であるすせり姫と結婚した大国主命が、すさのおの命の難題をすせり姫の助けで切り抜け、すさのおの命が安心して眠った際に、その髪の毛を柱にくくりつけ、生大刀と生弓矢と天詔琴を持ってすせり姫を背負って逃げたというお話を塊の両面に彫ることで、すさのおの命が二人を追いかけられない様子が強調されています。

浜口 陽三（はまぐち ようぞう／HAMAGUCHI Yozo／1909 広川町－2000 東京都）

くるみ 1961（昭和36） メゾチント、紙 14.4×10.2
稲むらの火の物語で知られる濱口梧陵のひ孫として、現在の広川町に生まれました。東京美術学校（現在の東京藝術大学）を退学しフランスに渡ります。第二次世界大戦中に帰国しましたが、戦後パリに戻り、銅版画の制作に取り組みました。当時は廃れていたメゾチント技法を取り入れることで評価されましたが、この《くるみ》は黒一色で、メゾチントという技法で生みだされる黒の深みを見ることができます。

保田 春彦（やすだ はるひこ／YASUDA Haruhiko／1930 紀の川市－2018 神奈川県）

ソフィット B 1977（昭和52） 銅 32.0×31.6×31.0

建島 覚造（たてはた かくぞう／TATEHATA Kakuzo／1919 東京都－2006 東京都）

DISK 5 1977（昭和52） アルミニウム、木 37.5×86.0×32.5 建島嘉氏寄贈

保田春彦は保田龍門の子として現在の紀の川市に生まれました。東京美術学校（現在の東京藝術大学）で彫刻を学び、1958（昭和33）年から10年間パリとローマで過ごしました。帰国後はヨーロッパの都市や建築の形を主題とする作品を次々に発表しました。《ソフィット》は天井という意味で、ヨーロッパの教会など天井の構造を彫刻として抽象的に表現しています。

建島覚造は建島大夢の子として東京で生まれました。やはり東京美術学校で彫刻を学び、1953（昭和28）年から2年間フランスで学んでいます。生物の有機的な形や煙のように形の定まらないものと、機械的な形を融合させるような抽象的な表現に取り組みました。シリーズで制作された《DISK》は機械の部品のようにすが、その両端は骨や何かをつかもうとする手の形を単純化したようにも見えます。

松谷 武判（まつたに たけさだ／MATSUTANI Takesada／1937 大阪府－）

WORK-63-9 1963（昭和38） ビニール接着剤、油彩、水彩、キャンパス 187.0×192.0

関根 美夫（せきね よしお／SEKINE Yoshio／1922 和歌山市－1989 東京都）

作品 # 395－396 1975（昭和50） 油彩、キャンパス 162.5×261.2

具体美術協会のメンバーとして活躍した二人です。

松谷武判は大阪市に生まれ、父の仕事に従って小中学校時代を和歌山県内で過ごしました。14才のとき西宮市に転居し、大阪市立工芸高等学校で日本画を学びますが、病気のため中退。その後、具体美術協会に参加

し、当時新たに開発されたビニール接着剤を使った造形で注目されます。1966（昭和41）年、第1回日仏絵画コンクール展で留学賞を授賞してパリに渡り、以来パリを中心に活動を続け、2017（平成29）年にはヴェネツィア・ビエンナーレ国際展に招かれ、2019（令和元）年にはポンピドーセンターで個展が開催されました。

関根美夫は和歌山市に生まれました。1948（昭和23）年、自由美術家協会の中村真が開いた研究会に参加し、初めて抽象絵画を見て衝撃を受けたといいます。その研究会で吉原治良を知り、1954（昭和29）年に吉原を中心とした具体美術協会の結成に参加。しかし1959（昭和34）年には退会しています。1963（昭和38）年から終生ソロバンをモチーフとした作品の制作に取り組みました。

宇佐美 圭司（うさみ けいじ／USAMI Keiji／1940 大阪府－2012 福井県）

水族館の中の水族館 No.21967（昭和42） 油彩、キャンバス 185.2×276.0

泉 茂（いずみ しげるIZUMI Shigeru／1922 大阪府－1995 大阪府）

割れる三角 1983（昭和58） 油彩、キャンバス 259.0×194.0

泉照子氏寄贈

いずれも大阪生まれですが、母親が和歌山出身の二人です。

宇佐美圭司は小学校時代に和歌山に疎開していました。高校卒業後、独学で画家をめざし1963（昭和38）年、南画廊での個展でデビューを飾ります。全く抽象的な作品から、徐々に人体の形が現れ、1965（昭和40）年に発行された雑誌『LIFE』に掲載された一枚の写真から抜きだされた人体の形を展開しながら制作を進めました。

泉茂は大阪市立工芸学校（現在の大阪市立工芸高等学校）に学び、1951（昭和26）年、「デモクラート美術家協会」の結成に参加。版画制作に取り組み、1957（昭和32）年には第1回東京国際版画ビエンナーレ展で新人奨励賞を受賞。しかし活動が版画に制約されることを嫌って2年後に渡米、更に1963（昭和38）年にはパリに移り、5年を過ごしました。帰国後はエアブラシを用いた幾何学的な作品を試みる一方、大阪芸術大学で後進の育成にも当たりました。《割れる三角》は薄い銅板を焼いたり、紙を折り曲げたりして実際にシワの入った状態を写し取った作品です。

野田 裕示（のだ ひろじNODA Hiroji／1952 御坊市－ ）

WORK 505 1988（昭和63） アクリル、キャンバス 262.3×183.2×7.0

御坊市に生まれ、1976（昭和51）年、多摩美術大学絵画科油画専攻を卒業。翌年、初めての個展を南画廊で開催します。絵画とはなにかという問いであり答えでもあるような作品を試み、袋状にキャンバスの周囲を縫ったり、箱を作品とすることで、一般的な絵画の外形を外れながらなお絵画であるものを生みだすことに取り組み続けています。

湯川 雅紀（ゆかわ まさきYUKAWA Masaki／1966 海南市－ ）

福耳 2011（平成23） 油彩、キャンバス 182×259×4.5

海南市に生まれ、和歌山大学教育学部、大阪教育大学大学院で学んだ後ドイツに渡り、1996（平成8）年、ドイツ国立デュッセルドルフ美術大学を修了。円が螺旋状に連なる状態を主題に、様々な視点や前後関係か

ら空間を生みだす作品を展開しています。

妻木 良三 (つまき りょうぞう TSUMAKI Ryoza / 1974 県湯浅町 -)

境界 E-II 2011 (平成23) 鉛筆、ケント紙 101.0×72.0

湯浅町に生まれ、2001 (平成13) 年に武蔵野美術大学大学院造形研究科を修了。布が作りだす襞の形を鉛筆で克明に描くことで、対象の美在感が曖昧となった風景のような画面を生みだしています。

小柳 裕 (こやなぎ ゆたか KOYANAGI Yutaka / 1977 和歌山市 -)

The Light with the Palm Leaves (Source of Light 14-3)

2014 (平成26) 油彩、アクリル、キャンバス、パネル 162.4×132.2

和歌山市に生まれ、2002 (平成14) 年、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程を修了。照明が光を発する様子を克明に描きながら、光源自体は描かれず白いキャンバスのままに残されています。いくつかのシリーズで光の存在や時間を描くことについての思索を絵画とすることに取り組んでいます。作品の題名は「椰子の葉のある光、光源」

坂井 淑恵 (さかい よしえ / SAKAI Yoshie / 1965 千葉県 -)

Whale 2017 (平成29) 油彩、キャンバス 112.0×145.5

和歌山出身の父の転勤先の千葉県で生まれ、和歌山で育ちました。1993 (平成5) 年、京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻を修了。曖昧な状況に置かれた人物が曖昧に行為しているような描写で、物語性に富みながら明確な状況を説明しない、1990年代以降の美術の一つの動向を代表する作品の制作を続けています。

小河 朋司 (おがわ ともじ OGAWA Tomoji / 1966 新宮市 -)

COLOR TINT -RED- 1996 (平成8) 木、アクリル絵具、ミックスホワイト 115.0×250.0×38.5 作者寄贈

新宮市に生まれ、1994 (平成6) 年、多摩美術大学大学院美術研究科を修了しました。一見すると白い箱があるだけですが、作品が取り付けられた壁に淡く赤い色が見えます。作品の裏側に描かれた色が壁に反射して色が光として見えているのです。小河はこのような効果を作品として追求し続けています。日本赤十字社和歌山医療センターのロビーにも作品が設置されています。

展示室外の作品

1階 エントランス リーディング・コーナー

秋山 陽 (あきやま ようAKIYAMA You/1953 山口県ー)

めた^めら^らお^おい^いど
META-VOID 2004 (平成16) 陶 130×125×136 寄贈

クルーガー, バーバラ (Barbara KRUGERKRUGER, Barbara/1945 アメリカー)

む^むだ^だい^い わ^わた^たし^し お^おぼ^ぼ
無題 (私を覚えていて) 1988 (昭和63) シルクスクリーン、ビニール 378.7×268.1

ステラ, フランク (Frank STELLASTELLA, Frank/1936 アメリカー)

ラッカ III 1968 (昭和43) アクリル、キャンバス 304.0×760.0

グレコ, エミリオ (GRECO, EmilioGRECO, Emilio/1913 イタリアー1995 イタリア)

び^びょう^{ょう}に^にん^ん かん^{かん}ご^ご
病人を看護する 1963 (昭和38) ブロンズ 157.0×186.5×12.0 玉井一郎氏寄贈

2階 ホワイエ テラス

フラナガン, バリー (Barry FLANAGANFLANAGAN, Barry/1941 イギリスー2009)

ね^ねじ^じま^まが^がった^た つ^つりが^がね^ね う^うえ^え と^と の^のう^うさ^さぎ^ぎ
ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎 1989 (平成元) ブロンズ 230.0×187.0×128.5

鈴木 久雄 (すずき ひさお s SUZUKI Hisao/1946 静岡県ー)

き^き げん^{げん}し^しょう^{しょう} き^きょう^{ょう}ぼ^ぼく^く
木の現象〈喬木1〉 1997 (平成9) 鍛造ステンレス鋼 244×76×82 作者寄贈

き^き げん^{げん}し^しょう^{しょう} き^きょう^{ょう}ぼ^ぼく^く
木の現象〈喬木2〉 1997 (平成9) 鍛造ステンレス鋼 244×76×82 作者寄贈

さん^{さん}き^きより
散距離 2008 (平成20) 鍛造ステンレス鋼 472×590×180 作者寄贈

こう^{こう}さ^さき^きより
交叉距離 2009 (平成21) 鍛造ステンレス鋼 340×800×624 作者寄贈

屋外 ライトコート

建島 覚造 (たてはた かくぞう/TATEHATA Kakuzo/1919 東京都ー2006 東京都)

まん^{まん}じ^じ
MANJI 1982 (昭和57) ステンレススチール 270.0×170.0×75.0 作者寄贈

スネルソン, ケネス (SNELSON, KennethSNELSON, Kenneth/1927 アメリカー)

ち^ちやく^{やく}ち^ち
着地 1969 (昭和44) ステンレススチール 250.0×1000.0×360.0

北尾 博史 (きたお ひろし/KITAO Hiroshi/1967 京都府ー)

アシモノノセカイ 1999 (平成11) 銅、鉄 200.0×500.0×500.0 田中恒子氏寄贈

保田 春彦 (やすだ はるひこ/YASUDA Haruhiko/1930 紀の川市ー)

き^きゆう^{ゆう} お^おお^お ぼ^ぼく^くし^しや^や
球を覆う幕舎 1994 (平成6) ステンレススチール 208.0×335.0×305.0

し^しゅう^{ゅう}らく^{らく} か^かこ^こ か^かべ^べ
聚落を囲う壁 II 1994-95 (平成6-7) 鉄 60.0×127.5×451.2

ノグチ, イサム (NOGUCHI, Isamu/1904 アメリカー1988 アメリカ)

く^くも^も や^やま^ま
雲の山 1982 (昭和57) 酸化処理した鉄 176.0×113.0×71.8